幼兒教育

第二十卷第二號
大正九年二月十五日發行

目次

我が園保育の近況……桃園
勅題にちなみて……中澤登免
我園の一日を(二)……全國各地幼稚園
雜報……
大會所感の記事を讀みて……關西の一會員

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、例之ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亙り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

三月號より別項の如く改正

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正九年二月十二日印刷
大正九年二月十五日發行

東京市日本橋區岩附町一番地
編輯兼發行者　小高艶

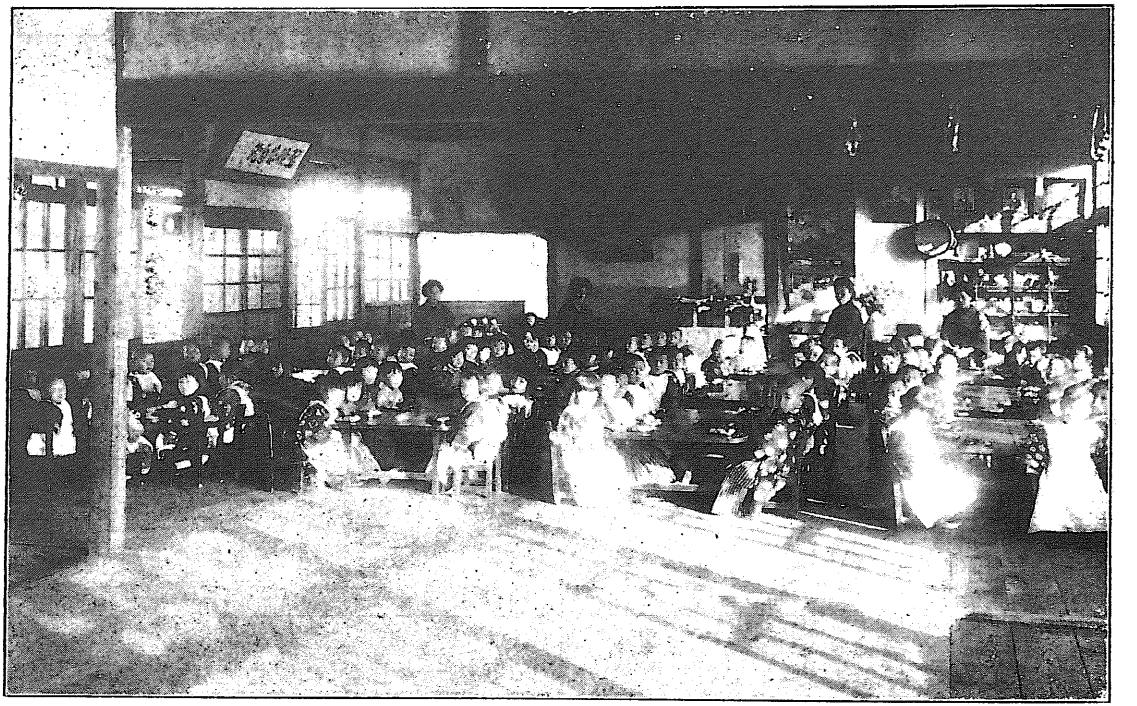
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　杏林舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所　日本幼稚園協會

園兒の假裝行列

（私立福岡幼稚園）（我園の一日參照）



幼稚園のおまつり

(私立青森幼稚園)(我園の一日参照)

會告

本會はこれ迄出來る限り、本誌値上の實行を躊躇致して居りましたが、紙價及印刷製本等の工賃は益々昇るばかりで、到底現定價では、持續することが出來なくなりましたので、遺憾ながら大正九年**三月分**より左記の通り定價改正致しますから、何卒此儀御諒察の程願上ます。

一冊　郵稅共　金貳拾五錢　　六冊　前金　壹圓五拾錢
十二冊　前金　參　圓　　（郵劵代用壹割增）

大正九年二月

日本幼稚園協會

會員各位

發行日變更

本誌の發行日は從來毎月一日でありましたが本月號から都合により毎月**十五日**に變更致しますから、これまた御諒承を願ひます

——裏面御注意——

二月常會

一時　日　二月二十一日（第三土曜日）午後一時半より
一場　所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て
一講　演
希臘の昔語り
——生活と藝術——
文學士　菅原教造君

會員外の方々も多數來聽を歡迎いたします。

二月

日本幼稚園協會

幼兒教育　第二十卷第二號
大正九年二月十五日發行

我が園保育の近況

東京府女子師範學校附屬幼稚園　桃園

我が幼稚園の庭は可成りに廣い。然し廣いのみで何等の設備もない。僅かに砂場を有する位のものである。幼兒の遊園としては、誠にもの足り無いが學校の運動場として存する以上、止むを得ぬ事と思ふ。幼稚園が學校から獨立する迄は、此不備を忍ばねばならぬ。かやうな不平はあるものゝ建て込むだ市内の幼稚園に較べて幸福と感ずる事もないではない。清い空氣を呼吸して、青空のもとに思ふ存分駈け廻れる廣やかな運動場を有する事は何よりの幸であらう。幼兒は此頃の寒空にもめげず、戸外に出でゝ元氣よく遊んで居る。兩頰は林檎の樣に活々として居る。兩の眼は水晶と輝いて居る。彼等の健康な顏を見る事は、何よりの悅びである。實に一點の邪心無く、眼に一點の曇りもない。かゝる幼兒の笑顏に迎へられる先生こそ眞に幸福と云はねばならぬ。私は幼稚園の仕事ほど氣に入つた仕事はない。殊に婦人と生れて常に母性をたゝへる事の出來る此仕事に從事する事を幸福として居る。そして私は神のみたから(幼兒)の良友として恥ぢない人間になり度いと常に思つて居る。

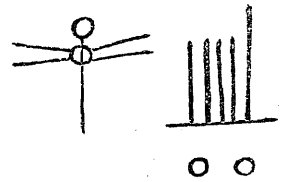
此の度の御たづねに際し、日頃の考の一端を述べ御挨拶と致します。次に認めます記事は、近頃興味を感じた保育の一節で御座いますので御目にかけました。

十月下旬の事、一夜颱風が我が帝都をおそつた。翌朝登園して見ると運動場のこゝかしこは、水溜りの池をなして居る。紺碧の空は高く、水面には小波さへも無い。あらしの後の靜けさは一段である。時

しも何處より飛來せしか赤トンボの一群を見た。次第に數を增し水面かすめてスキ〳〵と飛ぶ其輕快の姿よ、日頃無趣味の庭も今日はなか〳〵に趣が深い。道が惡い爲、外遊びを見合せて居た幼兒達は、此景趣をどうしてぢつと見て居られ樣、忽ち赤シキ赤シキと叫びつゝ、戸外へと駈け出でた。早くも運動場には、トンボ捕りが始まつて居る。氣をもむ先生の心も知らで、水溜りと云はず、泥濘と云はず、トンボの後を、追つて行く、子供の靈は—今やトンボに奪はれて居るのである。私は此の止み難い子供の欲求を、著物や靴が汚れる位の理由で禁止するにしのびなかつた。そこで、著物やエプロンをなるべく短かく、かひ〳〵しく出で立たせて、上靴はすべて下履にとり換へさせた。そして思ふ存分にトンボ捕りを行はせた。子供の喜びは非常である。遙かに遠き水溜り迄遠征したのもある。早くも成功して、先生に見せに來るのもある。見れば誰れの發明か、砂篩に砂鍬を插し、長柄のトンボ捕りを作つて、水に降りたつトンボをふせ樣として居る。子供の全精神はトンボに集注されて、驚くばかりの注意が拂はれて居る。見よ、其熱心を、ぬき足さし足で近よりて首尾よくトンボを打ちふせる迄の其努力を、ふせたるトンボを如何に捕るかと見てあれば、篩は地上をすりて靜かに引き寄せられた。そして周到な注意のもとに中に手をさし入れて漸くこゝに目的を達する事が出來た。此時初めて子供の面上は喜悅に輝いたのであつた。努力の大きい丈に滿足も亦大きい。之れを見て私は感じた。幼兒をしてかく迄に愼重の態度をとらしめ、細心の注意を拂はしむるは、かつて不用意に捕りて幾回か失敗した經驗のたまものであらう、と、誰れも之れを敎へたのではない。事實が之れを敎へたのである。經驗して得た知識ほど貴いものはない。幼兒には日常の事にあたり、敎へるより實際にふれしめる事が、最も大切である事をしみ〴〵感じたのであつた。子供がトンボ捕りに成功した其悅びは、征服者の喜びである。人間界ではむしろ弱者として扱はれて居る子供が、トンボを對照とした時、强者の位置を贏ち得たのである。其滿足思ふべしである。子供は今優勝者の誇を感じ、欲求の滿足を味ひつゝあるのである。トンボ捕りが精神的にも此の樣な得ものをさせて呉れる事を知つた。然しこゝに考へねばならぬ事は强者が弱者にのぞむだ場合であ

る。往々強者は自己の力量をたのみ、暴虐の行爲に出る事がある。弱者の苦痛を以て快とする如きは、強者の強者たる所以でない。自己の品性を毀けるものと云はねばならぬ。幼兒がトンボに對した時、野蠻性を發揮して之れを虐待して快とする如き事あらば、こは斷じてゆるすべきでない。觀て居る處幼兒等はかゝる殘虐を加へない。むしろ愛玩的動物として之れをいたはつて居る。故にトンボ捕りの遊びが、子供に優者の誇を感せしむるとも、決して品性を害するものでは無いと私は確信して居る。茲に又興味ある子供のトンボ觀なるものがある。トンボは今產卵期に入つて居るので、子孫を產みつけんが爲水溜り指して飛來するのである。子供が「おつながり」と稱するトンボが澤山に來る。子供は一體に珍らしいものを好み、慾張りのものである。一つより二つが好きである處から。此「おつながり」は子供達に非常に歡迎されるのである。此の「おつながり」に付ては別に不審をいだか無い樣である。自分達の世界に照して、お友達が仲よく手をひいて來たと思つて居るのが多い。又中には反對に二疋がかみ合つて喧嘩して居ると解して居るのもあるらしい。いづれも「おつながり」の眞實にはふれて居ないが、幼兒に生殖方面の事は知らせ度く無いから、却て好都合と思ふ。今の間は幼兒の美しい想像に任せて置くとしやう。トンボ捕りは子供の本能的欲求を滿足させて吳れる愉快な遊びであるが年中する事は出來ない。殊に赤トンボの飛來は颱風の後に見る一時的現象であつて、毎年今時分に限つて居る。しかも强い日光は午後ともなると運動場を乾かしてトンボに產卵の場所を失はしめる。地面が現はれ出すと、赤トンボは何處へか飛び去つてしまふ。僅かに半日の遊びに過ぎ無いが、非常に愉快な熱中的の遊びをさせて吳れる。我が園の秋の樂しみの一つで私は之れを颱風の土產と呼んで居る。

此遊びの行はれた翌日のこと、私は豆とヒゴを用意してトンボの製作を試みた。材料は左圖の如き二寸位のヒゴ一本、一寸五分位のヒゴ四本、豆二粒、とで一疋のトンボが出來上るのである。此の保育は實習中の年若い先生によつて行はれた。昨日の愉快なお話から始まつて、今日の製作に對する幼兒の欲求心を起させ、製作を爲さしめると云ふ計劃であつた。そしてなるべく自發的に作らせる爲にお話の間



に製作品の觀察や板畫に就て、トンボの形狀に關する理解やら製作上必要な知識やを與へ且つ明瞭にすることにつとめた。そして幼兒の製作心の高潮に達した時材料は配布せられた。此時先生は幼兒に「今お配りしたお箱の中には三疋トンボが作れる丈のお豆とヒゴが這入つて居ますから、なくしない樣にして下さい。それから先生が今云ふ丈宛、お机の上へお出しなさい。と傳へられた。其命令は次の樣である。「お箱の中から長い籤竹を一本と短かいヒゴを四本とお豆を二つ丈出して下さい」。幼兒は、先生の言葉通りにした。そこで先生は、其お豆とヒゴでトンボが一疋作れますから、こはれない樣に作つて御覽なさいと傳へられた。子供は先刻先生からトンボの製作順序を示されて居たので、とる手おそしと作り始めた。此の組は年長組である爲、之れ位の製作は容易であつた。子供は出來上つたトンボをさも滿足げに眺めて居る。此時先生は殘りのお豆とヒゴで更らに二疋のトンボが作れる事を話して、自由に作つてよい事を傳へられた。子供は喜び勇むで次の製作を始めた。

此時突然先生に質問を發した子供がある。それは日頃元氣な日さん(男兒)であつた「先生、僕之れを作つたら「おつながり」にしてよう御座んすか」と、年若い先生此幼兒の奇拔な質問に少々あはて氣味で、「いえいけません」と言下に斥けられた。日さんは多少失望をあらはしたが、それでも先生の言葉に順に從つて居た。處が「おつながり」の一言に刺戟された他の幼兒は忽ち共鳴したものと見え、あちこちに、僕「おつながり」にしやう。僕も、私もと云ふさゝやきが起つた。先生の御言葉など耳に入らなかつた樣子である。私は子供がどんなものを作るであらうと興味を感じつゝ見まもつて居た。暫らくすると出來た。次の樣な形の「おつながり」があちこちに出來上つた。

之れを見ても子供が「おつながり」を如何に解して居るかゞわかると思ふ。二疋つなげたのは、眼で見た處を正直に寫實したのである。三疋つなげて喜んで居るのは、之れはお友達が仲よく手をひいて飛んで來たとの美しい想像のもとに作つたものであらう。大人が子供に對する時、大人の世界に照して子供の言行を批判し、束縛してはならない。子供には子供の世界がある事を知らねばならぬ。トンボの作製はかくの如く子供を悅ばせ、滿足させると共に、私にも亦得る處あらしめたのであつた。(大正八・一二・五)

(田家早梅)

(ト調四分ノ二)　　(中澤登免作歌曲)

5 1 | 3 1 2 | 5 5 5 5 | 3 5 6 5 | 3 3 2 2 | 5 ——
(ユ タ ケ サ ニ　ノ ー フ ノ　イ ー ヘ モ　ニ ホ ヒ ケ　リ)

5 5 6 5 | 1 2 3 2 | 1 6 5 | 2 2 2 3 | 1 ——
(ハ ヤ ハ ツ　ハ ー ル カ　ウ メ ゾ　サ キ ヌ ー　ル)

勅題にちなみて

彦根幼稚園　中澤登免

ゆたけさに農夫の家も香ひけり
はや初春か梅ぞ咲きぬる

註

幼兒は新しきもの珍らしき事を嗜好する性あれば暗々裡に不識の間に諸種の德性を涵養し得て遂には性ともなるものなれば日々の保育中に何時ともなく薫育し人格を作ることを得この趣意にて本園にては毎年勅題御發表の際に謹咏し之を幼兒保育の資料となすを常とせり、これによりて、1、我が國體、2、忠孝の大道、3、勤勉と努力、4、和合團欒、5、自然の妙味等の德性涵養に資す。

我園の一日を（二）

皇風幼稚園　工藤壽子

──次第不同──

○誕生祭の一日

出席兒百九名誕生兒三十二名

十一月二十二日午前十時より當園年中行事の一つに數へらるゝ秋の誕生祭を行ふ。前日より幼兒諸共園内隈なく掃除をなし式場萬端整頓しありたるもなほ昨夜降りし雨に園庭をめぐれる日置八幡鎮守が森の紅葉色深くなりて、梢には雀の群さへづり、庭には鳩の來り遊ぶもありていかにも今日の誕生を祝ふが如く空には一點の雲もなく、朝日さし添ひて氣分自らすがすがし。さて午前九時になりぬれば、幼兒等は皆々衣服改めて包み切れぬ喜びの面にて門に入るや「先生御早よう」あどけなき聲音に「先生御目出度う」と思ひ思ひの朝の挨拶ありて、いと可愛し。來るもの來るもの前の如く誕生氣分に滿ち今日を晴れと著飾りたる色とりどりの蝴蝶の庭に舞ふが如く、中にも御祝を受くべき幼兒はお父樣お母樣を客間に案内し保姆の指揮に從ひ茶菓をすゝめ主人役をつとむるもありて其喜び亦一入なり。

さて式場の正面には白幕を張り中央に祭壇を設け綠したゝる眞榊に白幣赤幣をとりしでゝ右側には八雲琴二面を供へ左側には太鼓オルガンを供ふ、定刻に到れば雅樂太鼓の音ドンドンと莊嚴に場内にひゞき渡るを合圖に來賓父兄幼兒の順序にて入場、特に誕生幼兒は入場に先だち手洗ひ口漱ぎて別に設けの席につきぬ。茲に一同席定まるや先づ式の前に靜思を爲さしめ誕生幼兒總代一名出でゝ東天を遙拜し誓ひの言を述ぶ「此所に集りました私共はいつも天子樣の御恩を忘れません、お家ではお父樣やお母樣の仰せを守りまして幼稚園

では先生の御話をよくきゝます而して桃太郎さんの様な智恵の有る仁深(ナサケ)い勇(ヲヨ)い人となりまして天子様に忠義をつくします」。

(一)園長開式の辭　(二)祓式　(三)神靈招請(警蹕)　天照大神　大國主神　產土神　幼兒氏神を招請す

(四)開扉(奏樂)　(五)神饌を供す(奏樂)誕生幼兒十名御酒御饌を順次に運び供へ奉る　(六)園長祝詞を奏す

(祝詞略)　(七)園長玉串を捧ぐ　(八)幼兒總代十名玉串を捧ぐ　(九)產土神參拜唱歌　(八雲琴太鼓オルガン合奏)職員幼兒一同左の歌を越殿樂の譜によりて合唱す

產土參拜の唱歌

第一節　此產土のみやしろに吾等のみおやの氏神は朝な夕なに神はかり氏子等まもりたまふなり

第二節　此神々のみめぐみはゆめゆめ吾等を忘るまじつとめ學びて生ひ先きに報いむ道は忠と孝

(十)紀念扇子授與園長手づから(誕生兒總代二名出て受く)其扇子にはさの國風一首を書き添へらる

男兒　民草のしげれる中にぬけ出でよ
　　園の竹の子雲の上まで

女兒　明け暮れに心づくしの稚兒櫻
　　めでたく咲かん春ぞ待るゝ

(十一)園長の訓辭　扇子授與終りて園長左の訓辭をよみきかさる。

あはれわが敎への子ら　今日はそなたの誕生日
うからやからより集ひ　祝ひことほぐ吉日ぞよ
抑も人はあめつちの　本つおやなる父母と
國ををさむる父母と　我を生みたる父母と
三の惠をかゞふりて　此世に出づる者なるぞ
この道理をわきまへて　我身の本をわするなよ

そなたも始めは父母の　膝にいだかれ母刀自の
背におはれてふた親を　泣き苦めし乳兒なりき
朝まだきより夜半迄も　身にしたゝれる汗水に
わが身を育てたまはりき　おもへば高し父の恩
添乳し給ふふところを　汚しゝ折もさりげなく
なで愛しみ給はりき　思へば深し母の恩
著る物もなく食ふ物も　なき徘徊へる子も有に
そなたはいかなる幸か　思へばはてなき親の恩
鳩に三枝の禮儀あり　烏に反哺の孝ありて
子たるの道を知るものを　まして萬の長として
かゝる惠に報いずば　鳥けだものに劣るべし
されば生立つ園の子ら　この御惠を身にしめて
進み行くなる世と共に　己がむきむき身を立てゝ
忠と孝とを忘るなよ　忠と孝とを忘るなよ
ふして思ひおきて忘るな君と親に
つくさんために生れたる身を

痛切なる口調に列席の父兄等いづれも恩愛の情に感じ流涕するものさへありき。情にもろき當保姆もいつもながら園長の心を推しはかりて涙にくれたりき。次で主任より當日の祝意を述べ併せて園長訓辭を復衍する。(十二)幼兒の答辭　誕生幼兒總代男女二名出でゝ園長の前に進み「私共は大きくなつて天子様に忠義をつくします」と御誓ひを宣ぶ。

(十三)各組の祝辭及贈物　各組幼兒總代出でゝ寶袋に福槌の菓子入れたる贈物を目八分に捧げ持ち八雲琴の

音に歩調を合せてこの時保姆一同にて「君を祝ふてひくときは千代もへぬべし姫小松お前の御池の龜岳に鶴こそ群れ出て遊ぶめれ」と唄ふ誕生兒の前に進み「今日はお目出度う」と述べ誕生兒禮して享く

（十四）神靈昇還（警蹕）　（十五）幼兒神饌を撤す（奏樂）　十名の幼兒順次出て撤し奉る　（十六）閉扉（奏樂）

かくて園長發聲にて萬歳を三唱して茲に式を閉ぢたるは十時四十分なり。

昨日までわんぱくがき大將の面々も前後四十分の式中咳一つするものなく、水うちたるが如く靜かにて御行儀よく眞面目くさつて目を丸く口もあきてめづらしげに或は八雲琴のすがすがしき音色拍子に耳を傾くるもあり、或は其次其次と變る變るの樣に魂も奪はれてありしに今や式終り、かねて待ち設けたる幼兒の樂隊は長廊下を體も飛上る樣に拍子面白くトントン桃の中からひよくりとにて、式場へとねり込むや幼兒の氣分茲に一轉し轉手古舞して場内忽ち別天地と化し、それより今日の祝に作りたる「みたらし」「智仁勇天地人の意にとり色を三原色となす」を幼兒父兄保姆一同「御目度う戴きます」の發聲にて、一同舌鼓を打ちて戴き、後、誕生兒の遊戯ありて退場。來賓父兄別席にて茶菓の饗應あり、擔任保姆各自明日日曜日の注意並に明後日を約して家路に就かしむ。

○　朝鮮京城庚子記念幼稚園　大和田りよう

昨日迄六十度前後の溫度夜來急變して攝氏冰點下七度華氏二十度に下降す當地として是位な寒氣は何でもなけれど餘りの急變故一層身にしむ元氣な一の組にもまんとが七分通り殖える、三の組新入兒登園の途中泣き居たるを一の組の子世界で强い日本男子とはげまし、いたはりつゝ己が林檎の樣な頰を紫になしつゝ連れ來る。

會　集。午前十時、昨日迄九時三十分なりしが登園者遲き爲め。

同唱歌。吾が子、冬の歌、落葉、ストーブ、南山廻り、之れは一二三と三組交代に一章づゝ唱はせる、各兒自己の番に至るを待ち構へて、起立しつゝ唱ふ其緊張振りの愛らしさ。

話。　石炭

遊戯。樂隊マーチ、軍人マーチ、月、汽車、（一列車十人、横濱にて終る、二列車づゝ出でゝ交代なり。）

運動場。十一時二十分庭に出す。寒氣も弛みて氷點より一度昇る。頃日來掻き集めし落葉の土俵も見るかげもなけれど、下の方には未だ枯れ切らぬポプラの葉も在りしと見え見付出、しごき莖のみとして切り合を始める天下の豪傑向て來ひを連呼する者、枯葉をつなぎて頸章を造り軍人を氣取る者、古竹箒を馬にする者等賑かなり。

食事。十二時大和田保姆の隣座は○○○滿君食後先生夕べは嬉しかつたのよと、大「それはどんな事」滿「夜中お母さんに起されて起きて見たれば田舍の方へ長らくの間出張して居らつしやつたお父樣がお歸りになつたのよ」大「それは嬉しかつたでしよう」滿「夫れからお土産がおまん頭で嬉敷てすぐ頂て食たのよそしたらもうお土産がなくなつたのよと少しさむしさうなり。

再庭。砂場はさすがにつめたければゆきてなし、輪廻し、鬼ごと、馬乘かけることのみ繁盛す。

保育室。午後一時二十分、一の組は前週來作りし織紙にて石炭入を作り二と三は落葉二三枚づゝ持せ石盤又は畫書紙に其輪廓をなぞらしむ。

歸宅。同二時。（一一・二四）

○　京都關知幼稚園

會集　九時深呼吸を五回なして室内に入り東に向ひ

兩陛下遙拜、一同朝の挨拶、日々の天候、土曜の山登り將軍塚へ日曜の一日に付きて新しき對話（話し方練

習）誕生日を祝す。
唱歌及び其の動作　自由遊嬉
園より程遠からぬ家に丹誠の菊、美事なるありて一同觀菊に出かけたり、浦島太郎の談話中にありし龍宮の庭もかくや美しかりけんと問ふもあり皇室の御紋になりし黄菊を一入好むなど前日の保育の事どもを菊によりて深く想像せる事を感じたり、菊の唱歌も思はず唱へり。
午後、畫がき方、菊と題して自由（園兒の好みし黄菊一鉢送られたり）。（一一・二四）

○

東京市阪本尋常小學校
附屬幼稚園保姆　和田くら

本園に於ては大正二年一月より毎月二十五日を期し（休日を除き）菅公祭を施行致居候其の目的とする所は良心の培養品性の陶冶等主として陰陽の行爲なく日常の生活に於て幼兒の心情を正しき方に誘ひ度考に御座候。
其の方法は菅公の肖像畫を掲げ御花を飾り（以前には小形の餅備を數多く供へ幼兒退散の折一同に分與することゝなり居たりしが都合上去九月より之を見合せたり）て之を祭る一同集合し年長組の幼兒をして一言づゝ菅公の御高德を稱へさせるなり。

菅公祭の一日

各保育室にて夫れ〳〵準備後午前十時三十分より遊戯室にて菅公祭を施行したり順序としては
一、合　唱　修身の歌
二、幼兒談話
1、是から天神様のお祭を致しませう
2、今日は天神様の日でございます
3、天神様の日は毎月二十五日でございます

4、天神様は菅原道眞といふお方でございました
5、天神様は字をおかきになる事がおすきでございました
6、天神様は御本をおよみになる事がおすきでございました
7、天神様はお友達と仲よくお遊びになりました
8、天神様のお宮は龜井戸にございます
9、天神様は我慢強いお方でございます
10、天神様は親孝行のお方でございました
11、天神様は泣く事がお嫌ひでございました
12、天神様は梅の花がおすきでございました

三、合　唱　結んで開いて（指導者幼兒）

四、園長談話　彦火々出見尊

五、合　唱　菅原道眞

右は何れも一定の位置に出で一禮の後先づ組と氏名とを云はしむる事とす最初に於ては其時の態度口上一概にふさはしからざりしも段々善きに改まりて長年の今日新らしき幼兒もいつしか見習ひ覺えて以前の樣は遂に失せたり。

式後食事の仕度にかゝりし時、年少組に於てお辨當が來ないとて泣きしが友達より天神樣は泣く事がお嫌ひでしたと云はれて忽ち泣止みたり屋内遊の一群は肖像畫の前へ進み私は何組の某と申す者で御座いますと云ひてはおじぎをなし居たり。

やがて退校時刻となり再び一同を集めお掛圖に禮をなさしめ途中の注意などを話して別れたり。（一一・二五）

高松市中央幼稚園

○

外遊の一日

毎週火金の兩日は全日園兒全部を引率し或は一所に或は長幼組各別方面卽ち山、野邊、海濱、河原、公園（以上を當園の大遊園とす）等交互に外遊をなす。

八幡宮山　本市產土神にして栗林公園西山の尾にあり

神を拜す

社境內にて銀杏葉を拾ふ（拾ひつゝ自由に落葉の唱歌を唱ふもあり）

神山に上る

山頂の眺望　市街海上汽船、帆船の往來、漁船の散在田野驛の汽車發著毎に汽車の歌等を兒童思ひ〳〵に喜んで唱ふ

晝辨當を喫す

食後暫時安靜休養、後下山、歸途につく。（一一・二五）

幼稚園內の一日

幼兒を迎ふ　當番保姆朝八時までに出勤し門の所に出て迎ふ

(1) 遊園自由保育　他の保姆は左記の遊びをなすべき場所を區劃し分擔指導をなす

庭園
- ブランコ
- 遊び鐵砲、馬等を以て
- 花壇、手入
- 動物　猿　兎　金絲雀　鳩　金魚　鮒等に餌を與へなどして戲る
- ボート
- 人形遊び
- お山遊び
- 落葉拾ひ等
- 砂場遊び
- お客遊び　蓆を庭に敷き　積木す　兵隊
- シラベ

(2) 室内（繪本　積木　玩具　盆栽　生花　畫方）

（庭園に遊び飽き又は疲れたらば隨意に室に入り成るべく樂に自由に遊ばしむ）

會集

遊園に飽きたるものを集め約十五分間本眞劍に次のことを行はしむ

服裝を整へ　手を洗ひ　鼻汁を拭ふ

奏樂……模擬運動

唱歌（富士山、櫻）を合唱す

(3) 自由保育

再び(1)の如く遊園に出でしむ

右遊びの外鬼事、相撲、高飛、リレーレース

(4) 室内保育（最も嚴肅に）……各組別五分乃至二十分

律動遊戯、唱歌、手技前日採集の落葉利用等の中につき何れかを各組の室にて行ふ

(5) 自由保育（晝食前なれば劇動を戒め靜に運動せしむ）

右室内に於ける作業終りたるものより順次に庭に出て自由に遊ばしむ

(6) 晝食（自午前十一時半至零時半）

當番兒食卓上の裝飾をなす（盆栽、生花、玩具）

配膳（辨當をのせたるもの）……受授兒相互に挨拶をなす

喫飯

お話、桃太郎（幼兒になさしむることもあり）

膳しまひ　卓拭ひ

(7) 自由保育

略ぼ午前中に同じ
遊園内の各遊具の整理
(8) 合併遊戯（自午後一時半至同二時）（毎週水曜にのみなす）
御國の旗　ボート
訓話　最も簡單に本日の遊び振り等のよかりしものを賞揚す
歸宅準備……容儀、服裝を整へ携帶品をもたしむ
幼兒を送る　各組毎に門まで送り出す。（一一・二六）

○

東京市立朝海幼稚園　千葉ひで

朝海幼稚園は幼兒の在籍數二百五十名で毎日の出席は二百四十名内外あります。
（一）毎朝幼兒登園のせつ微溫湯で一人で手を洗はせます。
（二）辨當の袋は白金巾でつくり姓名を記したものを用ひ毎週一回家庭で洗濯することにきめてあります。
（三）辨當戸棚は本園考案のもので夏は風の通りのよきやう冬は暖めるやうにできてをります。
（四）茶碗、箸は本園考案の方法で毎日蒸汽消毒をいたします。
（五）恩物及び運動用玩具は本園考案の消毒器で毎週一回「フォルマリン」消毒を致します。
（六）毎月一回身長及び體重を量り家庭へ通知致します。
（七）上草履は革裏を用ひます（麻裏は埃りがたちますから用ひません）。（一・一四）

○

私立福岡幼稚園

初冬の一日

一、午前九時半より會集をいたしまして朝の唱歌を一つ歌つて暫らく默止の後躾方に就て準備問答を二三回いたして後火鉢及ストーブの側にて暖をとる時の心得方をお話の様に敎への様に嚴にやさしく問答をしたり命令の様にしたりして

老人尊長(祖父母父母兄姉等)又弱き弟妹其他寒き戸外に入來たる人に暖き席を讓る事は誠に善きことであると云ふ事を極く子供らしく開誘し終る實行のお約束をして次の遊戯に移るべく其儘問答をすること二三回にして幼兒の希望を見出して後次の様に問答す、(問答、今日は寒いからどうです外に出て暖まる迄運動しては(幼兒多數贊同)私も暖くしたいから次は皆んなで外に出て澤山運動しましよう「何にしましよう」「練兵遊び(イタイゴッコ)」「汽車ゴッコ」「そう〳〵それがよろしいでしよう」。次は兵隊ゴッコ汽車ゴッコをします

二、外遊元氣な幼兒の希望者と保姆と共同して兵隊ゴッコをして遊ぶニコニコ笑つて見て居た幼兒數名も私も一所に加せて下さいと希望參加す適度にして次の遊びに移る

汽車ゴッコ、シュッ〳〵〳〵ヒュウーシュッ〳〵〳〵汽車は走りて數回驛に著く驛に著けば驛賣も居る又驛夫の驛名を呼ぶ者もある乘客として加はる幼兒もある顏を赤くして下車客となる幼兒も有る博多〳〵と云ふ驛夫の呼聲を終點として一同下車四散して終る次の遊戯に移るべく小用を促す

此遊戯に保姆は汽罐車となりて先頭に走る幼兒は後に後にと連結して走る、上りは男兒下りは女兒、互ひ違ひに行く

三、暫時各自眞の任意遊びとす　換言すれば休憩の意

四、唱歌　此日は充分運動したるを認めたる故動作を除く

五、食事　午前十一時半前後より準備食事時間は三十分間位

六、隨意遊び　繩飛び、砂遊び、ブランコ、木馬乘、スベリ、人形屋其他各自任意

七、粘紙　前に彩色を終へたる繪畫に人物飛鳥犬を配合粘付せしむ

退園午後一時過ぎる。(一一・二八)

初夏の一日

（大正八年度に入つて最も幼兒の喜んだ一日の一）

私の園では夏期に入れば主として衞生上の注意のみ種々工夫して話して聞かす事が創立以來十六年間殆んど同一型で有りますそれは當福岡は夏期に入れば昔から急症と申して急病に罹つて死ぬ幼兒が澤山有りますからです只今では疫痢と申す名になつて居ます是れは元氣に遊んで居た子供が發病八時間位の間に死ぬ病氣です實に恐ろしい流行病です、ですから夏期に入れば衞生、主に疫痢豫防食物の事其他を談話體修身躾方と結び合せて聞かせます無論家庭遊びの中に含ませる。

大正八年は七月十九日が夏期休暇に入る最終日で有りましたから此日は前一ケ月間に申し聞かせて置た衞生上の注意を問答して記憶を深くし猶其實行をする樣に申し聞かせ扨それから最も樂しき幼兒の希望を誘ひて云ふが儘にして長き休暇の分れをしました此日幼兒の希望は假裝行列であつた處が御家庭から宅の子も宅の子もと申出られる方が澤山有りましたから翌日又特に殘全部を假裝させてお樂しみ遊びをしました茲に面白きは或る御家庭から宅のは大學生に假裝させて呉れと申されました故幼兒の望と思ふて保姆は馬糞紙を四角に剪りて帽の上に付けブックを持たせ洋服に靴をつけ八字髯を黑で書いて美事に大學生を作り上げイザ行列と云ふとなつて甚御機嫌がよろしくない大學先生中々歩き出さぬベソをかいてシク〳〵泣出した何だか譯が分らぬからよく〳〵尋ぬれば大學生はイヤダ僕は田舍のおぢいさんになると云はれた早速顏を洗ひ服を去つて赤毛布鞋に脚袢お尻をはしよつて木の枝に小さき包みをぶら下げて肩にして白ひげを作つて顏にしわをかいて上げたら大喜びで行列に加はつて勇みに〳〵歩き出された。

私は考へました實に幼兒の心を得て其心になつて遊びの相手になる保姆は難しい者で、餘程深く注意をせれば幼兒に眞の樂しみは與へられぬと。又考へましたなぜ田舍の老夫になりたかつたかと、これは何でもない事で唯大學生は日々往來で見るから目慣れて居るが田舍の田吾作老人の旅行すがたは一寸珍らしいから幾分好奇心より出たらしいそれに幼兒は些の虛榮心もない天眞爛漫たる心故可愛らしく見せ樣とか苟にも大學生振つて威張とか云ふ野心はないからである此日は長い間の御褒美に差支ない限り迄は幼兒の要求を容れて遊びます時候から申しますとよろしくない樣ですが裸體になつても水で顏でも手でも洗つたつて心配がないから此種の樂しみは結構でした。

（福岡幼稚園保姆）

○ 朝の教員室

大積木の場所ではしきりにがたがたしてゐる、ワイワイと唯事ならぬ聲がするのでふりかへつてみると、圓い積木を幾つも幾つも列べて傾斜を作つてゐる、其上に大箱を乘せてTさんは今乘つた所であつた、いざといふ一人のかけ聲に二三人力を合せて後から押したかとみると、重心がよくとれてゐなかつた爲Tさんは箱からはね出されてしまつた、一同の驚いたのは瞬間で、誰も彼もハアハアと心からの笑ひを合せてゐる。

Hさんがお辨當を片手に、片手には帽子を持つてはひつて來る。先生御機嫌よう、先生モルモット差上げたいんですがおよろしい？、サアどうでせうかね御相談してからね、そんなら御相談してね。と行つてしまふ。

中の組の五人の誰彼はお靴をぬいでソファの上へ上つて飛びはねる。それは御免！ごみで大變大變、とN先生がとめる。一人はしきりに靴下をひつぱり上げてゐる、足の先へ五寸許りぶら下つてゐた。

「先生これなあに？」「カマキリの巣今にかまきりが出て來ますよ」、「からでせう先生」、「否エ中に卵がはひつてゐるんです今に暖かくなるとウジャ〳〵する程出て來ますよ」、「ソウ……」とにつこりするはGちやん。

運動場の草採り

サア皆入らつしやい！、と運動場のまん中に立つてさし招いてゐるのはN先生、ハ……イといさぎよい返事といつしよに力一ぱいにかけ付けたのは藤の組のNさん、續いてはせ參ずる面々は何れも年長組の腕白連、何事が起るのかと緊張し切つて先生を取り卷いてゐる、「なあに先生」、「なあに」、と催促する、「サア皆おきなさい此澤山のアカザの木をけふはみんな採つて仕舞ひたいんです、なか〳〵太くて容易に拔けませんが力一ぱい出してみんな採つて下さいそしてこゝへ山の樣に積み上げて下さい」。一同大喜びで早速手近の一株にとつついてみるが何が扨、夏中思ふ存分根を下してゐるアカザ直徑の一寸餘りもあるもの容易の事で拔け

るものじやない、二人も三人も一株につかまつてゐるのもあれば抜けましたと丈に餘るアカザをかついで鬼の首でも取つた顏付に功名をほこつてるのもある、意氣地なしのSさんは先生取れませんといつて來る、なに取れますよサア引張つてご覽と根のゆるんでるのを持たせて同じ功名に滿足させられてるのもある、小さい人は小さいなりに力相應のが澤山に取れる其喜び、先生も皆まつ赤になつて手も靴も泥だらけ、朝から參觀に見えてゐたOさんのおかあ樣もいつの間にやらお仲間入りせつせと取つて入らつしやる。

火曜日の紅葉の組

御機嫌よう先生けふはお料理でせう、とHさんはお帽子を取りながら尋ねる、先生も子供も嬉しそう。「先生はけふは何を煮るの」、「お芋とお豆」、「それじやお芋切らしてね」、「えゝ」。

男兒は大工のお部屋へと急ぐ。

お道具を出す人小使部屋へ走る人、お芋やお豆を洗ふ人、火のとれた七輪をあふぐ人、何れも立派なお女中ぶり。お芋の大きな輪切りの出來るのを待兼ねて、先生切らして、と先頭は何としてもHさん、先生はここ暫く介添人。よく齒の立つた庖丁一丁間違つたら小さな指がざくりといきそうなきれ味。先生は肩がつまる。切りたくない人一人もなし。平等に二きれづゝ綺麗に賽の目に切れたお芋は小ザルに一ぱい、サアそれをお鍋に入れて火にかけて此處一寸お勝手元はお手すき。

「先生縫取してよろしうございますか」、「お繪をかいていゝ？」。七輪を圍んでお仕事が始まる。お芋が黃色くなる、早くからお火にかゝつてゐたお豆もどうやら上皮が破れたやうな。「もうお味をつけませうね」、「先生甘くね」、とおあつらへ、三つ組の井に盛られてお芋とお豆はお隣やおむかひさんへ持つて行かれる。

お皿につけてゐると大工さん達は製作品を持つてお部屋へ歸つて來る。あゝおいしいなあと大にこ〳〵。やがていつもよりも嬉しいお辨當が開かれる、小さなお皿を一つ宛控へて「頂きます」、「御馳走樣」、の御挨拶もあらたまる、おかげんは如何と先生が問へば、「おいしい」「おいしい」、とあちらからもこちらからも。

大連市外沙河口
幼兒運動場

國廣節

○

出席幼兒六十名(現在籍幼兒は七十九名なり只今流行性感冒の爲缺席多し)。

十二月に入つたのに珍しく風もなく暖い日でした。

室内のスチームも朝の内に少し通したゞけで暖房焚きも暇でした、小使が布帯をかけ終へた室内の整頓をして見ると一日の内に四度も布帯をかけ清潔を主として居るけれども一夜の内に細かい塵埃が鉢植の菊の葉や雪の下のまるい葉に溜つて居る、しめ切つた室内はほこりを立てずに拭き取る樣にせねばならぬ、花瓶の白菊は少し元氣がなくなつたが外の花がない、是からは日本から來る高い花を買はなければならない少しの花でも貴く有難く思ふ水だけ換へて置いた、水盤の豆はよく延びて來たが日光が足りない爲にひよろ〳〵である、幼兒の共同製作の貼繪(柿の木)もみかんの木と變へねばならぬ、粘土板の上には形とり〴〵のみかんがよく乾いた樣である(幼兒の製作せるもの)幼兒はきつと塗りたいと云ひ出すであろう、ふと硝子越しに滿洲の冬枯を見ると野も山も庭も何一つ青いものはなく殺風景な淋しく無趣味な事、來春の四五月にならねば見られない長い事、せめて少さな自然でも澤山ほしい其頃内地の旅から歸へつた私はいつもより強く感じた。

先生お早う、あら孝ちやんは足袋も履かずにマントを著てるのは一人か二人元氣にニコ〳〵してつまらなさそうな顔の幼兒は一人も居ないのが何より嬉しい。

朝出入口で辨當も置かない前にリゾールで手を洗ふ事も長い間の習慣は恐しいもので何の苦もなくしなければならぬ事として無意識の内に實行出來得る樣になつて居る。

出席を現す貼繪も日々幼兒のしなければならぬ小さい仕事で皆喜んでして居る、(四月より翌年三月まで十二枚の畫用紙に一月一枚づゝなり、たとへば十一月は紅葉の木だけ豫て印刷なし置き日々葉を幼兒が貼る)。

修ちやんは四五人の男子と大形の連續積木で遊んで居つた、年少組の五六人は先生とおもしろそうに對話してるのもあつた八人掛けの卓子を窗近く持ち出して摺紙をしてる二三人もあつた朝の遊びは割合におちつ

いて静かに續くのである、其頃年少組が著しくお噺しを求むるのであるが今朝も一夫さんが先生一寸法師のお話しをして頂戴と椅子が見るまに運ばれ私のまはりは八人に取りまかれた。直ちやんは先生羊のお話しをと、清數さんは先生狼のお話しを、滿洲子さんは鼠の話しを、それ〴〵求むる所を異にして居るので其選擇に困つたが私はごく短い驢馬と狼を話したるに皆熱心に聽きたり、突然一夫さんは先生ニーャア（支那人の事）が荷物を積んだ驢馬を打叩きましたよ、あら痛いでしよう可愛そうにね、恰ど先生も一つ話して頂戴と求めてる所に年長組の彌代子さんが友と大聲に語りながら、あの一寸昨日お遊戯がおもしろかつたねと申たるが動機となつてみんなでお遊戯をした　先生が布箒で室内を拭く間に幼兒は周圍に椅子を排べて仕度が出來た、スキップ新しく出來た桃太郎の遊戯、一の組はみかん取りの律動遊戯（林檎取りと似たるもの）取つたみかんは船に積まれお船漕ぎは（ボートと同一）ピアノにもしつくり合つて幼兒も保姆もおもしろく愉快な運動をつゞけた、冬期に入つてから戸外遊びが出來ないから幼兒は著しく運動の滿足を求て居るので私共は方法を考へねばならぬと思つた。

遊戯の後では豫て準備してあつた切紙を求むる者のみになつた、義ちやんは猫の頸輪をかけたまゝ僕はしないと他の遊びへ入り百合子さんは一枝さんとお飯事の方へ行つたゞけで他兒の十六人は各自形を取り材料のみかんを切つた（保姆が故郷からのお土産がみかんであつたからそれが機會となつて）ちつとも鋏の使へなかつた光ちやんがいくつも切つて先生もつと〳〵と求めたるは嬉しかりし體力の盛んな喜代治さんは二十五も切つた紙のみかんは摺紙の船に積んで賣る人になつた喜代治さん大切そうに箱の中に數へながら入るゝもあつた。

お船に積んだみかんがいろ〳〵な遊びに變りゆく處を見て居るとおもしろく砂箱を海として船を浮べ手はお船漕ぎの律動遊戯をして居るのもあつた。

もう十一時半になつたので食事の仕度に卓子を拭くもの、お湯を運ぶ者、幼兒も保姆と共にすつかり出來て食事にかゝるは十二時（春秋は十一時半）靜かに食べる事に定めて居りますが幼兒は罪もないお話しをします。

食後の遊びは皆元氣な運動的な汽車ごつこ鬼ごつこ飛ぶ遊びなど多く今日は年長兒の那都子さんが小さいヨシエさんをおぶつて私光ちやんも負はれます、力を一ぱい出す樣な事をよく考へ出すものである。

恰ど波動の樣に遊びはいつも變つて又積木やお飯事遊びと變り小さい分團がいくつも出來た、章さんを中心になつてサンタクロースの玩具を入れる敎會を作つたので保姆はセルロイドの小さい子供の人形を澤山與へたるに大喜びにて敎會へ行く道を長く〳〵作り子供をならばせ今お爺さんにおもちやを頂きに行く處です と申居りたり、もうお歸りの時が來たのに幼兒は熱心に遊びをつゞけて、又明日遊びしましよう、先生もつと遊びたいの、お片づけの聲がした、先生是を毀はさないで頂戴、お片附けがすみ皆樂しく二時のお歸りとしました、今日はよく遊んだ日でした又明日暖かであつてほしい。（一二・二）

○

和歌山市立新町幼稚園　田村りつ子

朝會　本日園兒畑中雅治ノ誕生日ニ相當セシニヨリ一同御祝ノ唱歌ヲ歌ヒオ土產ヲ與ヘ其兒ヲ祝ヒマシタ悅ビノ色面ニ表レ一同ハ祝シ其兒ハ喜ビ和氣充溢シテ實ニ天界ノ樂園ダツタ此時身體ハ父母ノ賜ナルヲ以テ最モ大切ニスベキコトヲ話シマスト（オヤツハ餘リ食ベヌトカ怪我ハシマセヌトカ）無邪氣ニ口ヲ開キ實ニ可愛クアリマシタ。

室外保育

保姆看護ノ下ニ自由ニ遊バシム滑リ臺ニテ辷ルモノ遊動木ニ乘ルモノ池ノ金魚ニ餌ヲヤルモノ毬ツキ毬投ゲ草摘ミ又ハ落葉ノ唱歌ヲ歌ヒツヽ松葉ニ藤ノ葉ヲサスモノ電車ゴツコ馬ゴツコ小鳥ヲ見テ遊ブモノ砂場ニテ山トンヂル又ハ饅頭等ヲコシラヘルモノ種々樣々ニ活動シマシタ

室內保育

一、二、三、組共たゝみ紙ヲシマシタ

食事

當時食事ニ歸ルモノ百三十名中五分ノ一位アリマス（家事都合上許シテアリマス）
室内ニテ手ヲ洗ヒオ膳ニ向ッテニコ〳〵顔シテ一粒モ殘サズ食事シマシタ
午後會集　遊戯
一ノ組　紅葉　二ノ組　ふじの山　三ノ組　電車ト自働車
遊戯後左様ナラノ唱歌ヲ歌ヒ一日ヲ過シマシタ。（一二・一）

○　大阪府岸和田城内　鳩巣園幼稚部

當園では室内として僅かに二十坪一棟のみにして周圍が廣き故可成外に於て遊ばせる事として居ります。運動場には運動具としてブランコ四ツ、簡單なるシーソー一ツ、滑臺一ツ、が備付てあります其他二坪餘りの砂場と三十坪位の畑を作つて居ります畑には只今のところ芋、豆、大根、カブラ、キクナ、ホーレン草、等が有り、草花としては、キンレン花、菊、百日草、マグレツ、バラ、等を作つて居ります。今度協會の仰付により其中の一日を此ところに記す事と致しました。

ある一日を

出席幼兒四十一名内年長兒二十名　幼年兒二十一名

登園早き者より順次、庭の落葉拾ひ、草引、箒、サライ等を持ち掃除する、九時より野外運動（凡そ二十分間）
一同附近の野外に集合し、深呼吸三回、萬歲三唱（大聲を發し音聲練習をなす）かけつこ等する。
自由遊び（室内）
手毬造り、人形遊び、積木、樂隊遊び、畫本、描き方、等なす。
九時半會集
唱歌＝鳩巣園の歌、沈默＝（此の間樂器にて小守唄を奏す凡そ四分過し頃幼年兒笑ひ出し沈默を破る）。
談話＝つばめとへび（黑板へ畫を描きつゝ說明的に語る。遊戯＝（扁平足の幼兒（十名）のみ一名の保姆指導

のもとに海濱に遊ぶ）在園兒＝年長兒幼年兒を區別し共同遊戯をなす、スキップ、踊れ〳〵、農夫、などなす。

自由遊び（室外）

シーソー、滑（スベリ）、ブランコ、バスケットボール、（左右に針金を渡し籠を釣下げ幼兒等の造りしマリを使用す）

砂遊び等。

十一時半歸り支度。（一一・二〇）

其他、毎週金曜お辨當日にして二時まで保育す、天候の許す限りは海濱若しくは野原に於て遊ぶ又年長兒をして時々畫バンを下げ、郊外スケッチに行く事あり。

須磨浦幼稚園　野田千代

○須磨浦を眺めつゝ

小春日和の一日、保育室の南の硝子窓を通して柔かき日の光は室内隈なく輝す。昨日鹽屋から持ち歸つた黄菊白菊は美しく机の上に飾られ其清き香を絶えず送つてゐる、九時に開園すべきに八時頃より左右から附添に送られて先生お早うの聲勇ましく走り來る「僕一人來ましたァ、暑かつた」と何時も元氣な勇ちやんの顔には汗が流れて居つた。

やがて八時半頃になると大かたの園兒は集り來る柳の下のブランコに遊ぶ幼兒或は砂場に裏の草を植ゑて百姓の遊をなすあれば彼方には池の邊に蓆を敷きて小さい組の幼兒四五人家庭遊をなす。保ちやん用事ありげに走り來り「先生一寸神戸にいつて來ます赤チャンが病氣ですからお醫者樣をつれてゆきますから」「あら今お内から保ちやんは入らしやつたばかりでせう又神戸に入らつしやるどなたと！お母樣と」「イエ先生、うそつこの御醫者さんです」と保ちやんの遊はいつもこんなに眞摯である。開園合圖の拍子木に一同彼方此方から一目散に集り來る二三人の女兒の見當らぬ故彼方を見渡せば池のほとりの保ちやん達は蓆おまゝごと道

具を一生懸命に片付けて居つた。

ピアノの音に合せて圓く竝べられたる椅子に一同腰掛け教師の奏する靜かな音樂の音に二三分間沈默を守る此間は絕對に沈默を守らる、針の落ちし音も聞ゆる斗り靜かである。

朝の挨拶の歌をうたひ續いて秋のみのりの歌を歌ふ。我國の幼兒は兎角多くの召使に世話さるゝ傾向ある故か靴の紐も足袋も自分では出來ない又しない事を普通としてゐるから每朝何か一ッづゝ自分の事をする樣に勸めて何をなしゝかを尋ねる「芳ちやんは玩具を片付けた」とか著物を一人で著たとか或子供は附添なしで一人で歩いて來たとかを教師の耳元でさゝやく。

保育題目。秋の收穫と感謝、孤兒院等を今月の題目として今朝も果物野菜米の實物を示して其等につきての幼兒の經驗を問ふ、二三日前から收穫の感謝と共に衣食に不自由なる孤兒の事に同情を持たしめん爲に話して居たので、由良さんは「先生僕是を持つて來ました」と示すを見れば僅か一個の飴昨日母より貰つたもの。此幼き者の心より出た同情ほんとにうれしかつた。是が始めとなつて古著類、果物など少からず持つて來て本年は思はず神戸の貧民窟の幼い友達を喜ばす事が出來た、話が横道になりましたが此會集の時に出席奬勵のため各兒の暦に色紙を出席の印にはる。

會集後裏の山に木の葉木の實を拾ひにゆく、赤橙黃のとり〴〵の色に彩られし山の美しさ南を眺めると須磨の海はるか向に淡路島眞帆片帆の大舟小舟の行きかふ樣山の上は芝をしきつめた運動場周圍には幼兒の自由に採集される草、花、木の葉、竹などがある、こゝで一日遊んでも歸らうともしない。戰爭ごつこをする男兒、秋咲のつゝじを折りて家に土產にするといふ女兒、木の實をつぶして半紙に染物をなす幼兒、櫻の葉を袂に一ぱい拾つて絲通をなす女兒一人としてこゝに無聊を感じる者は居ない。幼稚園では先生の側にばかり居る壽ちやんも、今日ばかりは芝の上を辷りつ上りつして樂しんでゐる。正ちやんは何處からか珍しき草を探し來て押花とする。草や花の名を聞かれて急に植物書をひもどく事、度々である、何時歸らうともしないが早や十一時半歸途につく途で明日　聖上陛下大演習のため須磨に行幸あらせらるゝを奉迎の爲め、今日

の手工に旗を作らしめるので山の麓で旗竹を取り歸る。

歸れば十二時、各兒順序に手を洗ひ辨當を食す、稔さんがお茶の給仕各兒のお茶碗に茶を充して配布す食事中今日途にて見た農夫の米苅、大根引き等の話に花が咲く、食後それ〴〵うがひをなして運動場に出て遊ぶもあれば、遊戯室で大積木で船、家、橋、等作りて遊ぶもある、一時少し前に先きに取りし竹にて旗を作る。

一時から一時半まで遊戯ピアノに合せて行進後、輪になりて農夫の遊び、雀の遊び、名あて遊び等に興つきないが歸園の合圖に歸る支度をする、小さい組から辨當、肩掛、外套等所持品を持つて來させて靜かに輪にならばせ、其間帶、髮の解けてゐる者には結んでやる「さよなら」の歌をうたひそれ〴〵歸途につく。

（一一・一〇）

○ 保姆の一日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園　坂内みつ

第二部甲組、三十五名、一の組、十二名、實習科生二名手傳、二の組、二十三名

登園の途次……豆腐屋にまはる、兎の餌に毎日おからをとるので月末の拂をするためなり、いつもは近所より通園する幼兒が持參するなれど、今日は序なれば、おからを買ふ。

途中幼兒や附添に逢ひ挨拶したる事十五六たび。

登園後……兎に餌を與ふ、お伴する子供十餘人。

今日は一日粘土製作と畫き方で暮す豫定にて次の如く定め置く。

一の組　粘土、室内にて、實習科生受持。

自由製作（池にをしどり、龜のうかび居る處、鳥類、汽車、兎の小屋など出來たり）。

二の組半分、畫き方。室内にて、實習科生受持。
課題。私のおとうさんとおかあさん（今日は特別なり）畫用紙八つ切、六色の色鉛筆使用。
二の組半分、粘土。庭に卓子を出して、自分受持自由製作（御馳走、帽子、果物類出來たり）。
室内の二つの組は、同時にはじめ、外は少しあとにはじむ。
後かたづけをさせ、椅子や卓子をかたづけたるは十一時頃ならん。
自由に遊び居る處へ、飛行機飛ぶ。大喜びにて、追ひかけ行くもあり、足もとにおかまひなく危險なり。
室内にては、一の組が實習科の方に手傳つて、食事の用意をなす。
食事。十一時五十分。……正二、濱吉の二人見えず心配して聞くと、ぼだい樹の實を拾ひに行つてまだかへらぬといふ、子供を迎ひにやる、すぐにかへる、皆も安心の樣子見ゆ。
食後自由に遊ばす、ブランコに乘る人、鬼ごとする人、砂場に山をつくる人、まゝごとにおかあさんぶる人、掃除の手傳をする人、十五六人あり、獨樂を造るとて小机にあつまる人、梧桐の實を拾ふ人、繪本を讀んで貰ふ人あり、そこに又飛行機飛ぶ、頭の上をとぶ事三回皆夢中になりて喜びさわぐ。
入室。一時十五分、飛行機の話にて持ちきる、一の組は明日飛行機を畫く事、昨日から民間飛行機が一臺湯島一丁目の處に陳列されあるを見につれて行く事を約束して別る。
此間に、湯を呑みたい、靴のぼたんがとれた、手拭をぬらした、前掛が汚れた、銀杏の葉をゆはいてくれ、げじ〳〵を編んでくれ、とせがまれし事數件喧嘩の裁判をせずにすみたるはうれし。
放課後。實習科の方と、今日の出來事、處置法、製作の結果等を語り、明日の打合をなす、實習科は二時より課業あり。
出席簿をつけ週錄を整理す。
玩具室の整理をはじめられたれば手傳ふ。
職員一同連れだちて歸途につきたるは五時過ぐる頃、兎の小屋を見舞てかへる。（一二・一）

僕の幼稚園の一日

（一幼兒に代りて）（第二部二の組年長の男の子）

近頃にないよい天氣で暖かいので元氣よく幼稚園に來た、一郎さんも今日は元氣よくストーブにもあたらずすぐに遊びはじめた、まだ早いと思つて來たのに長野先生はもう御掃除が濟んでお花の水を取りかへて居られた、お山のまはりを駈けまはつて居ると坂内先生が「兎に餌をやらう」と仰つたので、おからと蕪の葉を持つて兎小屋の方へかけていつた。

九時半頃おはひりといはれたので急いでお部屋に入つた、僕の机は畫をかくので紙と鉛筆が用意してあつた、今日は自分のお父さんとお母さんを畫けといはれたので、僕は旗の立つたお家にお母さんが居られる處を畫いた、下駄の鼻緒は赤くした、一の組はお部屋で粘土製作をして居るが、何を造つて居るのか知らない、外に出て見ると、こゝでも二の組の十人ばかりが、粘土製作をして居た、淳文さんはうれしそうに笑つたり話したりして居る、熱心に下を向いて一生懸命製作して居るあき子さんも居る、おとなしい耕三さんは、其邊からひばの枯葉を拾つて粘土の帽子にさし、陸軍將校の帽子が出來た、と威張つて居た、暫く先生の側によつて見て居たが、邪魔にならぬやう、ブランコの方に行つてしまつた。

十一時頃ブーッと大きな音がしたので上を見ると皆んなも、飛行機だ〳〵と騒ぎ出した、僕等の頭の上を飛んで東の方へ見えなくなつた、下の方を飛んだので、隨分大きく見えた、形も色もはつきりと見えた、そばに見て居た律子さんは「よく見えた明日畫く時はかうかくんだ」と獨言をいつて居た。

「お辨當よおはひり」といふ聲にもうおひるかと思つてはひつて見ると、一の組が當番と見えて、お盆もお辨當も、お湯も配つてあつた、坂内先生はお部屋にあつたをしどりを見せて下すつた、お父さんはきれいな著物を著てお母さんが黑い著物を著て居る、おかしいな。僕の御父さんと御母さんとはあべこべだ、僕が今日かいたのはあれでよいのだと思つた、いたゞきますと箸をとつた、そつちこつちで笑ふ聲もきこえた、ゆつくりと思つてたべたが、僕はまた早く濟んでしまつた。おうがひをして外に出た。坂内先生も出て來られ

たと思つたらお掃除をはじめられた、朝はきれいだと拾つた銀杏の葉も、そろ〳〵汚くなつたから僕も箒を持ち出して手傳ひはじめた、箒や熊手を持つた小さい人が十人以上も手傳つて居た、其内にブーッと音がしたので手をやめて駈け出した、飛行機が西から東へ威勢よく飛んだ、夢中で追ひかけて行くと、今度は東から西へ飛んだ、キアーと又さわいで居ると、門の方へかけて行く人がある、走つていつて見るとその飛行機は北の方にまはつて居たが急に方向を換へて、空中滑走して東南の方へ見えなくなつた、置いて行つた熊手は他の人が使つてゐたので、塵取をもつて來て落葉を運んだ、おしまひまで運んだので先生に褒められた。

富久江さんがきれいなコマを持つて居るから、僕も欲しいと思つて見ると、日野先生が小さい机を出して何かして居られる、大勢人が集まつて居るからきつとコマだと思つて、「僕にもさせて下さい」と駈けて行つた、櫻の花の形をかいた厚紙をいたゞいてまはりを剪り拔いた、赤と綠の色鉛筆で塗つた、先生が穴をあけて下すつた、梧桐の實にヒゴを通した、すぐにコマが出來た、うれしくて堪らない、よく廻る、駈け出してお友達に見せ一緒にまはして居た、その内におはひりといふ聲が聞えた、これからマラソン競爭をしようと思つて居るのだと不平をいつたが、もうお迎の人も見えて來たから仕方がない、お部屋にはひつて支度をした、一時は飛行機の話で大賑かであつた。順治さんはだしぬけに大きな聲で「先生僕明日マラソン競走するんです、先生見に來て下さい、チー達衞君」。といひ出したので、皆大笑ひして僕の顏を見る人が多かつた、先生のお話で一同靜かになり、少しおちついてから左樣ならをして歸つた、一郎さんと一緒に。(一二・一)

○

兵庫縣私立
笹山幼稚園　内藤　繰

この幼稚園は、今から五年前、二三の有志により、寺院の本堂を借りて、五六名の幼兒を保育致して居りましたが、昨年四月、小學校内に假寓する事になり、園長は校長兼任となり稍く小學校との聯絡もつき、本年初めて幼兒に適應せる机なども出來た有樣で、設備など

はお恥しい程不完全でありますが、三年前から自然的に文字を教へましたが、なか〳〵よく覺え、就學の時は、五十音の應用も、姓名なども漢字で書きます。右の經驗から稍〻進みて、本年は十月から一齊に文字を教へて居りますが、今迄よりも好成績で、此頃では、殆んど五十音をよみ得る樣になり、幼兒も大喜びで覺えます。いよ〳〵大正九年一月から、能力別に組分け致しますので、其調査の都合上、文字教授は松竹組交代で、私が致して居ります。又、小學校とも、聯絡がとれて居りますから、決して無にならず、却つて都合よく、大正八年三月の保育修了兒なる小學校の一年生も、最早、二年生の課業を此頃では濟ませまして、成績も大によろしい。然し體育は變りません。何分田舍の事、郊外に等しき處で、外遊いたし、其他郊外場所も多くあり一週一度は郊外保育をいたしますから、皆元氣で、これ迄薄弱の兒など一人もありません。

本年は幼兒數百三十名ありますが、年齡別の松、竹、梅の三組に分けて居ります。

松　組（十月にして滿六歲に達せざるもの）

竹　組（滿六歲に達せざる、今年四月就學の幼兒）

梅　組（二年保育兒、つまり居殘る幼兒）

松組は小學校の一年生に近い保育を致して居ります。竹組は幼稚園の保育を致して居ります。梅組は家庭に近い保育を致して居ります。

初冬の一日

今日は快晴です。幼兒はいつも小學生の兄姉に連れられて登園いたしますから皆早く參ります。まづ保姆は朝の挨拶をいたしますと同時に、各兒の所持せる出席表へお花の印を押し、個人的に服裝及び身體等につきて注意し整容せしめ、若宮、野口、の二保姆に手を引かれつゝ外遊場へと次から次へ出かけ行きます。何分、朝が早う御座いますから、九時に各組整列、松組より順次會集室に入り、朝のお唱歌合唱後、一同腰を掛け、瞑目せしめ、寒くなつたからとて、洗面につき、殊に口すゝぎにつき及び服裝にては帶を上にしめぬ樣注意し、進行曲によりて筋肉練習をなし、暖かくならしめ、梅組はお家造り、松、竹の男兒には戰爭遊び、松、竹、の女兒はおかいこさんの各遊戲をなさしめて、順次外遊場さして出で行きました。（此間約四十分）

第二時は十時より松組文字教授時間にて、丁度尋讀本を使用いたしてをりますから、猿、蟹合戰全部復習

にて、近傍小學校先生の參觀もありました。著席するや瞑目せしめ、後書物を種々の方法にて讀ましめ、後、話し方練習として答へしめたるに、各兒によりて話し、終りに大正唱歌集中の猿、蟹合戰の唱歌合唱興味を持せて外遊場へ出ました。

此松組文字教授時間中は、他の竹、梅の二組は校外にある五百坪餘もある小山もあれば木蔭もあり芝生もある廣場にて、竹組は若宮保姆と赤、白の旗廻しをして居りました。梅組は野口保姆と芝生へ上敷を持ち出し、保姆がお母さんとなり、種々落葉を食器に用ひ、草花などを集めて、家庭遊びをなしつゝ爪切り、髪結ひをお母さんからしていたゞいたと喜びなどしてよく遊び、又、ある一幼兒は、松笠と松葉とで茶瓶をこしらへ、お茶を出しました。それは幼兒考案中に殘してをります。（此間約四十分）

第三時は十一時より、松組は若宮保姆と今迄郊外保育の時拾ひ來れる松笠や其他の木の實を小學校前の廣場にまき散らし、二組に分れて木の實拾ひの唱歌をうたひ、後その木の實を拾ひ、互に數を數へて、勝敗を決すると共に、數へ方練習をいたしました。竹組は、私が文字教授をいたしました。此日は、幸、前時間の赤白の旗により、アカイハタガアリマス。シロイハタガアリマスと練習なし、後、二つ一緒に云ふにはと問へば、年少の組ながらも、シロイハタトアカイハタガアリマスと答へ、これにより教授いたしました。

梅組は、野口保姆と室内で共同的積木をいたしましたが、お船、汽車などこしらへ、中には、無邪氣に拍子木にして、夜警の模倣となして一同を大笑ひさせました。（此間約四十分）

食事は、各組分れて食します。十二時二十分前から、食事準備に取りかゝりました、二三人の外は、皆、お辨當持ちです。準備が濟むと各兒お辨當を開き、整頓を待つて、食前の挨拶して食べ初めます。お茶は梅組の外は、幼兒で分與いたします。食事を濟ませたものから、保姆及び全兒へ食後の挨拶をして、小學校の兄姉に交り暫しは保姆の監督もなく、無事で外遊いたします。食後は、松組の女兒五人して片付けます。初めは出來ませんでしたが、此頃は上手にいたします。午後は、一時から、梅組は野口保姆と終りの集りをいたし、所持品を持つて外遊場にて、松、竹の組の歸りを待つて居ります。

竹組は、若宮保姆と舊城内で落葉を拾ひ來り、それに松葉を合せて自然物にて松葉つなぎの手技を芝生の上にていたし、家庭へ持ち歸りました。

松組は、初めて一定の罫入り用紙に鉛筆で五十音をかゝせましたが、全兒喜びてかき三分の二は可なりかけて居りました。中には机上の姓名札を見て書いて居りましたが、五十四人中半數以上かけて五六人は見事にかけました。

一時三十分各組外遊場にて町別に分ち歸へしました。(一二・四)

○ 海邊の一日

私立小田原幼稚園

室の掃除も整頓も出來まして九時子供は殆ど我をわすれて活働して居ります。チリンチリン、會集、唱歌、談話(北風さんと冬子ちやん)、十時まで三十分間自由に遊ぶ、十一時保育室にて各〻積木にて樂しむ、又は繪を書いて滿足する、十一時半まで全體が外に出て春子さんと花子さん、は食事のお手傳ひ、お箸とお茶碗とを、おくばり、十二時十五分頃までに濟むと、先生どうぞ今日も、お天氣です、お濱におつれ下ださい、と要求するので直ぐそばの海岸に遊ぶ。歸る事をわすれて滿足して無邪氣に遊んで居る、やがてお家の皆さんに、おみやげとして小石をポッケットやハンカチに入れて、各〻一時半明日迄でのお別れを先生と皆さんにいたして散園。

都のお子供さんにくらべて違つて今日迄でも日々研究的に意味深く進んで參りました、又何か後で申し上て見たいと思ふて居ります。

○

大阪市
日吉幼稚園
畠中百合

この園は全體四十六名一組を、豫め發達の程度に依りて三分團とし、一名で保育して居ります。まことに不自然な不完全な事ですが兎に角、ある一日の保育をご覽に入れませう。

初冬の一日

朝　室内にて幼稚園の歌合唱、其より準備をなして會集場に至る。

一會集　君が代二回一同合唱、談話、例により前日良い事をなしたる幼兒を一同に紹介す、當園主義良い兒の歌合唱、以上二十分。

一自由遊び　庭園にて公孫樹の落葉を一同と共々樂みて澤山拾ひ集め材料に當てんとしたるに煤にて黑く汚れありし故よく洗ひ水分を去りて押葉とす、三十分。

一談話　隨意談話昨日曜に各兒が家庭にて遊びたる事、又外出して觀聞したる事柄を希望者に話さしめたるに、一男兒が動物園に行きて猿の遊びを觀た話が一等歡迎され一同愉快に靜聽し有益なりし、二十分。

一自由遊び　男兒の一團が砂場にて元氣よく共同努力し高さ三尺に餘る山を築き富士山が出來たと大自慢、女兒の一團は睦じく家庭遊びに草を拔きて切り居たるが遂に玉簾の葉を摘み葱なりとて、大得意、他はブランコに乘りて愉快氣なり、三十分。

一食時　手と口を清潔にして準備し、一時間に近きお辨當、貴き笑顔の展覽會實に「をさな子のわりご開きて笑める顏」宛然此世の極樂場なり、零れた食物を鳩に與へた女兒等が鳩の子が今お母さんの口からお乳を呑まして貰ふて喜んで居ますと、而も嬉しさうに友達を呼び集め實況を觀察

す、五十分。

一自由遊び　男兒の多數が兵隊ゴッコ籐輪を綬章に木馬に跨りたる大將の命に樂隊を先頭に旗手、木銃を肩にする步兵、春馬に跨る騎兵、砂場にて砲臺を築く者、大積木にて橋を架ける者、口にてプロペラの代りする航空隊、威氣天を衝く大得意、女兒の一團は人形遊びに餘念なし、他は交代にて辷り臺に忙はしく先を爭ふも勇まし、一時間。

一共同遊嬉　行進に始まり幼兒多數の希望に依り、桃太郎、飛行機、猫と鼠、宿換へ、電車ゴッコ等嬉々として終る、二十分。

一自由遊び　男兒の一團が遊戯室の大塗板に合作にて種々なる交通機關の形を畫き見に來て下さいと呼び、女兒の一團は紅、白、茶、梅の瓣を拾ひ集め回轉臺の上にて二重の圓形に竝べ花の遊戯が綺麗に出來ました觀に來て頂戴と引張り凧になりたり、他は元氣よくシーツに乘りて飽く事なく、又砂場は何時も賑ひたり、三十分。

今日も早歸る時刻を報る鈴遊びに名殘惜氣なれど又明日にしませうと支度を整へ歸る時の歌を合唱して歸宅の途につかしむ、十分。（一二・一）

○　私立青森幼稚園　今　さ　よ

私の幼稚園では去る大正四年十一月園内に天照皇大神の御分靈を奉齋することになりました、其理由は吾々日本國民は何の宗教にらず家庭に神棚を設けて御齋き申すのは普通でありますが、幼稚園は家庭の延びた樣なものと心得ますから、常に大神樣の奉齋してゐないのを物足らなく思つて居りました處、愈〻其議が熟しまして大正四年御大典の折に御奉安式を致しました。幼兒は登園致しますれば、先づ玄關で「お早う」と保姆に挨拶したる後（受附には可成主任保姆は居ないのです）一人〳〵の神樣を拜みまして各自遊びにつきます。かゝる事は幼時々代に宗教心を養ふとか、迷信の心を抱かしむるとか、批難する方もあるかも知りませんが、私共の考へでは、其れとは意味は異ふと存じます、但しこんな事を論じましては其方は主になつて參りますから何れ又御批評を仰ぐことゝ致します。實は過日の大會の

折小田原幼稚園御提出の問題は「幼兒に敬神尊祖の念を養ふの方法如何」は右と關係深きこと、存じました故、充分御意見をうかゞひ度いと大なる期待を持ました處、遂にあんなになりまして誠に失望致しました。勿論自分も大會出席につきては何か一つ皆様の御意見を承り度く及ばず乍ら準備せばよかつたのですが、去る一月の休暇に京阪地方視察に出かけましたので此度は出席覺束なく存じて居りましたのを出席することになつたのです。お話はちと深入り致した樣ですが、かくて普通の家庭の如く他方より到來物ありし折も、裏畑より獲しお豆やお薯を頂く時も、先づ神樣にお供へしまして後會食します。其他三大節は勿論、儀式の折には殊に敬虔の念を以て拜しますが、何時しか身にも心にも過ち少なうなりしを眞心から感謝致して居ります。

幼稚園のおまつり

毎年神嘗祭の日に(十月十七日)致すのですが今年は恰も自分は不在なのと旁々庭園のお米はみのらないので十一月に致しました。一週間前に稻を刈りとりましたが、今年はみのりはよくなくて、お米の入つて居るのは僅しかありません。勿體ない事と思ひまして、一粒づゝさぐりとりました。乾かして後、神樣にお供へするのに一粒でも失はない樣にと幼兒に一粒づゝむいて貰ひました。よくむいてくれまして「神樣に上げるお米よ」とて悅び廊下から拾つたお米一粒を恭やしく「先生お米は落ちてありました」と持參する樣誠にいぢらしく不作の影響幼兒はお米の貴い事を知つたかの如く思はれました。(不作の理由は田の草をとらぬ故とさとりました)市中の子等は作物の生育の樣を見ること少き故、庭園の空地に田畑を作り居りしが、幼兒にはこよなく悅ばれます。南瓜やお豆は之れも畑から採つて置きまして、仕度に忙はしく、南瓜は十個ありましたが、各味に甲乙はありますから、一々しるしをつけて風味して置きました。お米やお豆等幼稚園で作つたのに他から澤山求め加へて御馳走せんければなりません故、皆前日から準備して置きました。朝早くから起きて仕度をして居りますと遠方より通ひ來る子等は八時頃に先づ一番車から下り(園より迎ひの車)嬉しさうに今日はお祭りだと申して南瓜を切つて居る處へ來て「宅にも大きいのはある」等申して見て居ります。今日は南瓜を切り乍ら「お早う」の挨拶をして居り、お天氣はよくつて近頃にない暖かさなのに何時迄も〳〵傍を離れぬの

もあれば、又餘念なく外遊をして居るのもあります、何時しか一人南瓜の種子を食べ初めましたら次第〳〵に食べること盛んになつたが、ほつて置きますと大勢なもんですから大分食べつくされました。「大きな鼠が居ますね」と申しますと「鼠が逃げた〳〵」と悅び乍らバタ〳〵走つて去ります。「今日は先生は忙しいから皆さんおとなしくして居らないとお馳走はおそくなります」よと云ふと「ハイ〳〵」と申して片附け等します。例年ならば南瓜を煮る事やお飯を炊く事等は他へ依賴するか又はお手傳人もあるのですが今年は皆内でしやうとしたので中々忙がはしく思ふ樣にはかどらず、かくするうちに漸く出來上り、二番車も步行の子等も悉皆集りましたれば遊戲室兼講堂と申すやうな一ばん大きなお部屋に卓子を竝べ配膳をして居りますと幼兒は椽側や窓から窺きてさも嬉しさうな面ざしにてながめ居る樣、こちらでは一刻も早くしやうと氣はせかるれど中々に暇どれました。

愈〳〵出來上りし故「おしまひ」と手を打ち鳴らしますと、皆は悅び勇みて遊具を取り片づけ手洗ひ淸めて集ひ來る。先づ神前には新らしきお米と山の物(果物)海の物(鮮魚)果の物(野菜)とを獻じ尙ほ今日のお馳走なる赤のお飯、南瓜煮、お香物(裏の畑に栽培せし大根)と、飼育の鷄卵の薄燒等をもお供へし、各組のお人形をもお客として一同席につきたるが、保姆より今日のお祭りにつきてのお話をなしたる後、改めて今日は保姆が天の祝祠を奏上し、一同叮嚀に拜神して後、神嘗祭と新嘗祭との唱歌をうたひ、次いで「いたゞきます」の言の葉と共に常よりは自づとおとなしく悅びさゝやきながら行儀よく食し終りまして、やがてお歸りと致しました。

この會食の實況は未だ撮影した事ありませんから念の爲寫して置きました。

今年の稻の初穗をとりて神嘗つかへ神をぞ祭る
青人草の命(いのち)のたねとかしこき神のたまへる種(たね)ぞ

意味は六づかしく解せぬところは多いのですが、何となう此の歌がよろこばれ(お祭其ものは樂しい故か)誠に覺えが早く其後ともよく口ぐせの樣にうたつて居ります。當日午後六時より保護者を中心とせる親善會を開催しました。當夜は保育上の打合せ、重要事項協議、第二回全國幼稚園關係者大會に出席したる感想談

がありました。

保護者會は、初め年一二回の會合に過ぎませんでしたが、幼兒の保育を圓滿にしやうとするには、保護者と親密となり、協力せざるべからざるは勿論、同時に吾人も保護者もともに日常の修養につとめざるべからざると、且つ又幼兒教育に就ては、幼稚園と家庭との外更に周圍の社會的感化も重要の關係を有することゝ存じまして、以上の理由のもとに、右保護者會をば毎月一回開催の事とし、幼兒保護者の外一般有志の會合を求めて幼兒保育上の打合せをするの外、修養となるべき諸先輩の講話を聽き、以て、本市の如き此種の會合の尠き一助ともなさばやと、これも大神宮を奉齋せる月の神嘗祭(十月十七日)より始め毎月十七日(大神宮樣の祭日)を以て開催する事と定めまして其後今日に至るまで一回も休會したることありませんでしたが、とかく保護者會の名義では一般に其意味は徹底致しませんで來會者も躊躇するの傾きが御座いますから、大正七年二月十七日親善會を改稱し、益々內容を擴張致しました。隨分と困難にも出逢ひましたが、次第〳〵に世間の同情をも得るやうになりました。茲に特に悅び感謝することは、有名なる鹿兒島市御出身の報德會主幹花田仲之助先生には、殊に我が親善會に御同情下され三回迄も御講演下されましたが、久留島先生の御講話も、二回程拜聽致しました。

次に又、間はず語りの樣で御座いますが、もう一つ申上ます。

度々御誌に力々の幼稚園の十週年記念式記事を拜見致しまして誠に羨ましく感じて居りましたが、我が園に於ても去る十月五日に致しました、約一ヶ月の間にすべての準備を致しましたので、實に多忙で御座いました。先づ第一は屋上改革のことで、創立當時よりの懸案でありましたが種々なる事情の下に實行せられずに居りましたのを今回の機會を失ってはならないと、寄附金募集に取りかゝったのです幸にも案外お金が多く寄せられたのを以て直ちに壁丹改革に著手致し尙餘裕は出來ましたので、之れを創立の折から希望を抱いて居りました幅一間長サ六間の椽側をも增築することは出來ましたので幼兒には此の上もなく仕合で御座います。其他記念帳の編纂やら何にやかやで晝夜兼行の日も尠なう御座いませんでした。

當日は天氣快晴で園入口綠門の上には朝日に撫子(徽章になぞらへて)を描きたる記念大額を揭げ、庭園の藤棚二ヶ所のもとに大天幕を張り周圍に紅白の幕をめぐらし、正面壇上は新築椽側をあて紫色のに白の徽章をぬきたる幔幕をまはし、中央をくゝり上げました。

來賓席、園兒、職員、修了兒及保護者の席を設けまして、午前十時式典開かれ、現在園兒百二十名、修了兒として現今中學校、女學校、商業學校生徒となつて居るもの以下六百有餘名、來賓には道岡知事及同夫人をはじめ理事官、市內各學校長、市會議員、本園役員、顧問、特別社員、通常社員、幼兒保護者等一百餘名入場し、席定まるや園長擧式の辭の下に一同正面に奉還せる皇大神宮を拜し、君が代の合唱、園長の式辭、功勞者表彰(園長、顧問、役員、園醫、主任保姆勤續等)次に表彰者の謝辭來賓の祝詞、修了兒總代の祝詞、主任保姆の祝詞、訓話ありて後、式歌(記念日)ありて正午閉式となりました。其れより來賓及在園兒修了兒一同に祝菓及折詰を分ちまして午餐會をなし午

後一時より園兒及修了兒よりなる唱歌會開かれ、先づ現在園兒下組より始まりて順次修了兒に及び第十回より第一回に至る各組の合唱ありまして同三時閉會致しました。當日の式典は其形式に於ては不完全であったでせうが下は尋常一學年より中學校、女學校四學年に至るの修了兒年長の差こそあれ何れも幼な時代の面持ちにて悅びに滿ちる樣場内にたゞよふ空氣も暖かに、實に自分にはすべてを忘れ世の何物にも立まさる悅びと滿足とを覺ゆると共に此の世に生れてより又なき程の悅びかと思はれました。希くは彼等は今後充分なる發達を遂ぐると同時に、うらゝかなる幼な心を何時〳〵迄も持たれたしと心から祈りました。尙當時の祝意を添へんがため一室には第一回修了兒より第十回兒に渡りての各自思ひ〳〵の出品にかゝる成績品を陳列し、且つ一回毎に在園時代に於ける寫眞及畫き方貼紙等をも併せ陳列し、別室には在園兒の手工或は保姆の考案道具其他十週年の思出でとなるべき材料をも陳列致しました。

○編輯室より

○日本幼稚園協會幹事會の決議により、本誌定價も愈〻來る三月號から別項の如く、値上げするの止むを得ざるに至りました。定價改正と共もに、頁數も幾分增加いたし、內容の充實をはかりたいと存じます、何分從來の定價では、たゞ消極的になる外致し方がありませんでした。

何卒購讀の諸君には事情御諒察の上益〻本誌のために御援助下さる樣願ます。

○本號は豫告もせずに發行日を遲延させました。實は印刷所變向その他の事情で急に斯うなりました。爾後發行日は十五日と變りましたから何卒左樣御承知を願ます。

○前號にも申上ました通り本號は各地から御送り下さいました「我園の一日」をもつて大體を飾る事に致しました。御寄稿頂いた全部を本號に揭載の筈の所紙面の都合にてまだ次第に續く事になりました。お互に各地の保育振りを拜見する事は幸と存じます。尙會からは一々お願ひ申上ませんけれ共何卒この樣な通信を盛に御寄せ下さいまし。本誌は喜んで御紹介申上ます。

「ヘッペル」の「わが幼時」は休載いたしましたが、次號には揭載完了の筈です。

○流行感冒が暴威を逞しくして居ります。皆樣の御自愛を祈ります。

○日本幼稚園協會常會

本會二月常會は來る二十一日(土曜日)午後一時半から東京女子高等師範學校附屬幼稚園で開きます。文學士菅原敎造先生の

希臘の昔語り

——生活と藝術——

と云ふ講演があります。多數の方々の來聽をお勸め致します。

○奈良女子高等師範學校保姆養成所新設

奈良女子高等師範學校にては大正九年四月より新たに保姆養成所を設置の由その概要左の如し。

奈良女子高等師範學校保姆養成科規則

第一條　保姆養成科生徒ニハ修身、兒童心理、保育法、生理衛生及育兒法、圖畫、音樂ヲ授ケ附屬幼稚園ニ於テ實地練習ヲナサシム

第二條　修業年限ハ一箇年トス

第三條　生徒ノ員數ハ募集ノ都度之ヲ定ム

第四條　生徒ハ女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校、實科高科女學校ノ卒業者ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ヨリ選拔ス但本文諸學校在學中ノ生徒ニシテ該學校長ニ於テ現學年內ニ卒業スベシト認メタル者ハ本文卒業者ニ準ス

一、資性善良操行端正ニシテ身體健全ナル者

二、年齡二十二年未滿ニシテ夫ヲ有セザル者

第五條　前條但書ニ依リ選拔セラレタル諸學校生徒ニシテ該學年內ニ卒業セザリシトキハ其選拔ヲ無效トス

第六條　入學志願者ニハ左式ノ入學願書、履歷書ニ最近二ヶ年間ノ成績調査書、人物考定書、身體檢査書及戸籍謄本ヲ添ヘテ差出サシム(書式略)

備考

本人ノ事情ニヨリ通學或ハ寄宿(本校寄宿舍)スルコトヲ得ル由、詳細ハ本校ニ御照會アリタシ

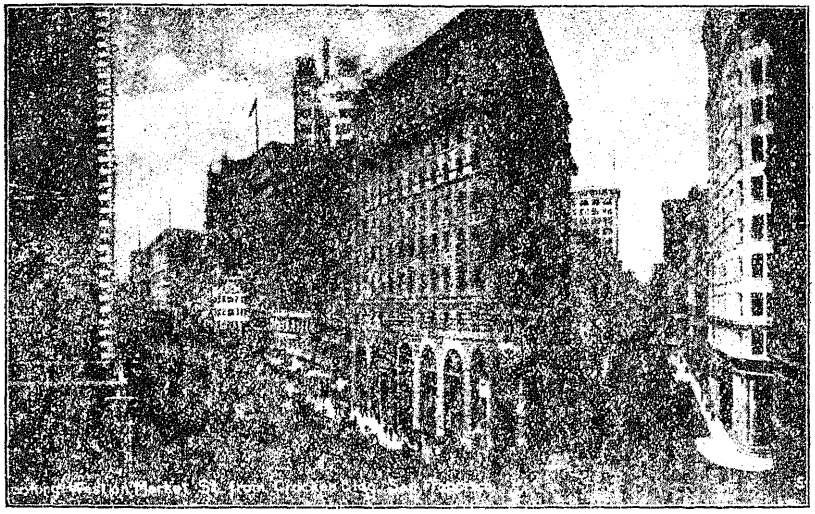
○東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集

東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集に關する規則は昨年から全國を二分して募集地方を隔年に交替しましたが大正九年度に於ける募集地方は左の如くの由。

臺灣、青島、北海道、大阪府、神奈川縣、新潟縣、千葉縣、茨城縣、奈良縣、愛知縣、山梨縣、岐阜縣、靜岡縣、山形縣、福井縣、富山縣、島根縣、廣島縣、和歌山縣、香川縣、高知縣、大分縣、熊本縣、鹿兒島縣、沖繩縣、(以上)

志望者は至急該募集地の各府縣廳につき手續照合せられ度く、願書受付期限は二月二十日限。其結果の發表は二月末日に於て、本校より地方長官に通知すべしとの事。

尙修業年限は一ヶ年(四月より翌三月に至る)にて、實習科生徒は本校附屬の幼稚園に於て、各組に二人乃至三人づゝ所屬し、各自幼兒數人を受持ち、該組擔任保姆の指導のもとに、一ヶ年を通じて專ら幼稚園敎育の實地を習得すると共に、學科目としては、主として、兒童心理、保育法、理科、衛生、圖畫、音樂等の授業をうける事になつて居るそうです。



○おたより

二十九日正午上陸して亞米利加大陸の地を蹈みました。

之れより見物の初まり〳〵。

十二月三十日

サンフランシスコにて

クラハシ

大會所感の記事を讀みて

關西の一會員

大會々場のアトモスフイヤーの直觀がやがて筆になりて十二月號に掲載されたので自分は早速之を讀んだ。さうして全く意外の感に打たれた。それは同じ會場に同じ空氣の中に三日間を過して同じ問題に觸れ同じ事柄に接し同じ聲を聞いた一人〳〵の感じや批判が餘りに違つて居ると云ふことである。然し同一物に對する各個の感じは必ずしも一致すると限つたものでもなければ殊に主觀的要素の多い我々大人の感じと云ふものが殆んど千差萬樣であるといふことから考へれば、その違つて居るといふことについてこれを心理的にいへば何の不思議もなければ疑問もない。然し自分は自分としての考を披瀝して敎を受くることは必要であると考ふるにより、失禮とは存じながら左に申上げて見たいと思ふ。

大會に於て主催者が殊に至れり盡せりの準備と待遇とには感謝の辭なき位に感じたるは出席者の誰れしも同感なりしならんと思ふ。諮問案討議題の成り行きは各人各樣にて思はぬ結果の現はるゝも亦群集心理によりて支配さるゝためである。斯る大會合には無理ならぬことゝ思ふの外はない。それは會員の眼界の狹いのでもなければ自分の頭の間違ひでもない時には會員の多數が婦人であるために議事法に馴れず可否贊同が明瞭でなかつた爲めに思はぬ結果に終つたことも多かつたであらう。だれも〳〵長閑なる樂園に生活する時とは自から氣分の異るのも無理からぬことであるとは思はれるが、それはそれとして前號の大會所感を載せられた出席者の一人はどうも東京のお方らしく直觀されるので關西の會員はどうしても一言辯じないわけにはいかぬと思ふことがある。今回の問題は不思議にも東京よりは一題も出てゐない。關東にては靜岡、小田原より討議題。研究發表には福島縣より一題がある斗り、第一回の幼稚園關係者大會は東京フレベル會の主催にて東京女高師にて開かれ第二回は京阪神戸市にてお受けする

ことになつた。以上東京は第一回の發起者であるから第二回に對しても充分なる御同情を寄せられるのが至當であると思ふのに今回には一題をも提出されず出席者も亦非常に僅少なるは實に情ないことゝ感じたのである。東京は申す迄もなく我國の首都であり女高師はあり日本幼稚園協會はあり幼兒教育の中心であつて載かなければならないと思ふのに、此の冷淡さを考へると實に我が國の幼兒教育の爲めに痛嘆の外はない。

今回の提出問題が「早教育ニ醉サル、」と御感じになつたり「幼稚園ノ仕事ハ知的教育ヲ主トスル所ナリノ下ニ議論シタ」とお考へになつたならば夫れは大なる間違である。三市聯合保育會では數年前から人格問題や優良の感情の養成方法如何などいふ問題もでゝ感情意志の方面を初め心身の各方面に就いても論議せられてあつたが各問題を一時に研究する事が出來ない爲めに文字の問題が去年の三市聯合會の時に殘りしを續けて研究する事になつた爲めに、今回の大會に提出するに至つたのである。折柄富山、廣島方面より同じ樣な問題が偶然にも集つた。併し主催者側ではなるべく他府縣の方々の御提出を尊重する意味で重複した樣な問題をも採用せられたとか聞いて居る。其のために知識に偏した教育を問題とする事が多かつた事と思はれる。知識の研究をしたから知識の教育ばかりに偏するといふこともなく要するに順々に爲し易きことより研究は始めらるゝに違ひない。乍併出席者の一人者が幼兒の情意陶冶が知識の教育よりも重大なることを絶叫して我國の幼兒教育者に至大の注意を喚起して下さつたことは實に感謝すべきことゝ思ふ。

「日々遭遇スル末梢ノ問題ハ實際家ガ適切ニ感ズルコトガ多イカラ實際家同志ガ相談スル事トシテ夫レヨリ前ニモット〳〵根本ニ觸レタ問題ニ就イテ相談シテ頂キタイ」

との出席者の一人の御注文は至極御尤のことである夫れも結構であるが末梢の問題、根本問題とはいつたい如何なる事であらうか、哲學、思想等の問題ならばいざ知らず、生活か教育かといふ樣な大問題を承つても之を實行する場合には生活夫れが教育であるから兒童の生活を破壞しない樣にと思ふても時によりて教育をしなければならぬ場合がある。

保姆の人格によりて子供が感化されるのが眞の保

育だと云ふことは根本問題に違ひない。兒童の神性を發達させるといふも根本問題に違ひない。年齡に應じた身體の發達、手技の研究、言語、數の觀念等の樣に分類された種々の事柄は末梢であらうか。子供の日常の生活からいへば僅かなる一つの行動も決して末梢とは考へられない小さき者こそ大なる價値あるものと思はれるのである、如何のものであらうか。

『十有餘園ヲ參觀シテ千差萬別其ノ園ソノ人ノ人格ノ現ハレテ有ル』ことを御考へになつて『根本問題ガマダ解決サレテ居ラヌ』との御說を承つて私はいよ〳〵根本問題について分らなくなつたのである。自分はいつも思ふに敎育とは敎育者と被敎育者との心の接觸である。凡てが人格の感化であると、若し之が違はぬとすれば各園各人の理想の實現は却つて保育の進步向上を促すものではないであらうか。

『一方幼兒ノミヲ相手トシテ居ラル、專門家ニ在ツテハ對象物ガ常ニ〳〵手答ヘノナイ幼兒デアル爲メニ旺盛ナル力ヲ現ハスニハ餘リニ物足ラズ其ノ力ヲ研究ニ注グ樣ニ成ル事ハ當然ノ事デアル』との御言葉を承はるに至つて實に呆然たらざるを得ないのである。想ふに出席者の御一人は實際敎育に從事しておいでになる方ではないに相違ない。却つて前に攻擊して居らるゝ幼稚園管理者か又は机上の理論家に相違ないと思はれる(誤らば御許しを乞ふ)。なぜなれば眞に幼兒を愛し其の幼兒を敎育し樣と思ふ人の口からはどうしても斯かる情ない言葉は出るものでない。餘り幼兒を無視した言葉である。保育研究者を侮辱した言葉である。何が故に研究するかをも御存じない御言葉であると思ふ。申すまでもないが私共關西に於て熱心に研究したいと思ふて居るのは其の樣な「精力過剩ノヤリ場ノ爲メ」にするのでも兒童を方便に使つて學者ぶるためでもない。

私共が研究しやうとして居ることは私共が日常接して居る幼兒を一個の人格者の萌芽として考へる時にはこれを知育、情育と別々にして考へる事は出來ないのである。幼兒といへども彼にふさはしき感情が動き、幼稚ながらも自然物に對し人事に對する知識の欲求を持つて居る其の多數の子供を圓滿に敎育しなければならぬ故に之を敎育するには保姆と幼兒の日常の接觸、卽ち人格の接觸に於てのみ初めて實を擧げることが出來るのであつて直觀力の銳敏な純

なる幼兒に接する保姆は、須らく自ら人格の向上をはかり至醇の生活をもつて幼兒に接することが肝要であるが、一面に於ては彼等のもてる能力を如何に保護發達させ、盛んな活動力を如何に滿足させ樣かといふことについては現在の幼稚園敎育に於ては遺憾ながら私共は滿足して居られないのである。少しの無理も矛盾もなく極めて自然的の發達をさせ樣とする處に、研究の必要を感ずるのである。卽ちその無理のない敎養の道は、保育者自身が充分に生理的原則を知り發生的心理學に依りて而かもプラグマチイズムとアイデイアリズムの兩極が調和統一された思想によらねばならぬ。そこで、私共は如何に保育者としての使命を自ら確認し深い信念をもつて全力を傾注して此の道にたづさはつても、此の原則を知らずに暮らすならば子供達に何の幸福を與へ得るであらうか。何の效果を奏するであらうか。學者の研究はむしろ原理、原則を見出すための研究であるが、實際家は子供の日常の動作や心狀をつぶさに觀察し一人や二人についての觀察に依りて常識的判斷をなすことなく、出來る丈多くのものによりて根據ある普遍的の事實を見出して敎育の方針や方法を自らクリエートしなければならぬのであつて、精力の餘裕をもつて、學者の領域を占領するといふ臆測を離れて、眞に根據ある保育の實を擧げることで、それこそ文部省諮問案の幼兒各年齡に適切なる保育事項如何に答ふる眞の科學的の答案を得る次第である。今一つは日頃接する各個の幼兒を比較研究するに非ざれば、各個性の長短を知ること能はず、保育の最も大切なることは兒童の一人〳〵の遺傳性、環境等を充分に知悉して之に適する保護、保育をすることである。私共の研究は此の如き意味に於て行はれるのである。

『誠ヲ以テブツカツタラ不滿ヲ感ズルコトハナイ』

との御言葉は御尤も千萬にて誠を以つてぶつつかる時に始めて研究が起るので、末梢の事柄にても忽がせにせざる處に眞の愛がある、研究があると思ふのである。私は大會に於ても、モツト〳〵眞の研究があればよいと切望した次第で、さうすれば此の大會はより以上に有益であつたに相違ないと思はれたのである。

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高島平三郎先生

幼年雜誌 良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區林町五十七番地 コドモ社 電話 小石川 六一一八 二九二一

幼兒教育 第二十卷第二號 大正九年二月十二日印刷 大正九年二月十五日發行
明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
印刷所 合資會社 杏林舍

學習院教官 東京府立第一高等女學校教諭 東京中學校 東京音樂學校講師
共著 小松耕輔先生 田邊貞吉先生 梁瀬滋原先生

大正幼年唱歌
大正少年唱歌

菊判 全十二集
全部完成
定價各金貳拾錢
郵稅各金貳錢

菊判 全十二集
第四集迄發行
定價各金貳拾錢
郵稅各金貳錢

第四集
大工 那須與一 加藤清正 赤とんぼ 三輪車
曾我兄弟 お祭 山彥 秋の野邊（コスモス）

幼年唱歌は幼稚園及び小學校低學年兒童に少年唱歌は小學校兒童に歌はしめん爲兒童の日常生活に合適せしめ現行の國定教科書に連關せるものを選びたるものにて斯界の大歡迎を博せり。

東京市麴町小學校長 土川五郎先生著

近刊豫告

大正幼年唱歌表情遊戲

遊戲界の福音

發行所 東京市京橋區南傳馬町二丁目二番地 振替東京二〇八九 目黑書店